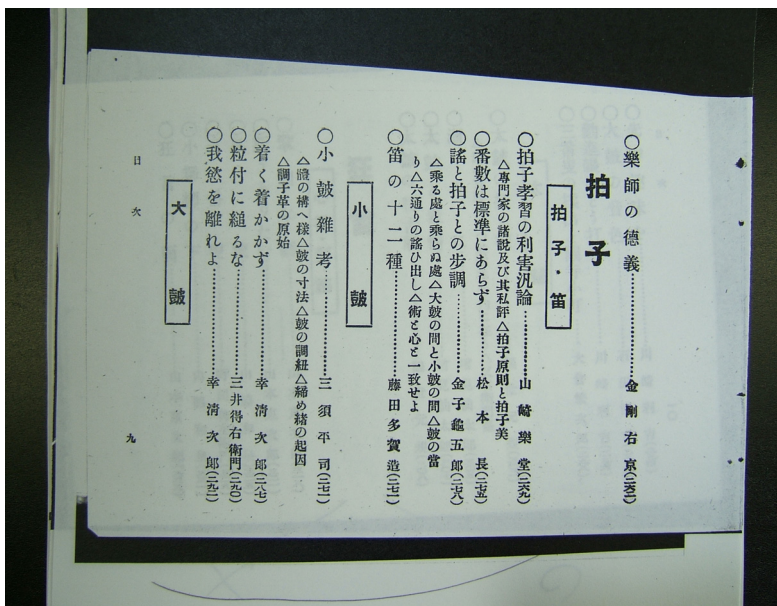
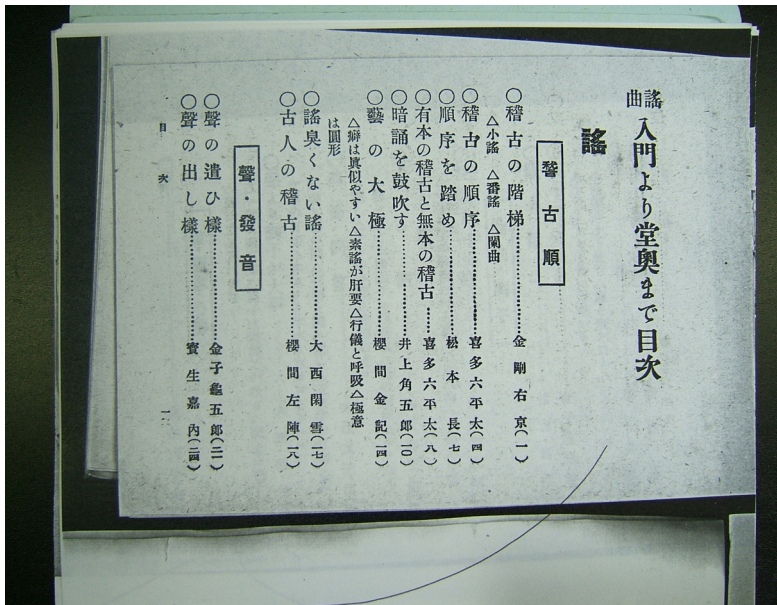


齋藤香村 『謡曲入門より堂奥まで』

全体は、謡、能、拍子、狂言に分かれている。内容は、それぞれの部をさらに、稽古順、声・発音、曲節・調子、位・緩急・心得などと細分化する。齋藤は編者であり、おもに掲載されているのは、能楽師による言葉である。写真には、目次の一部をあげた。拍子というセクションがある。その中に、山崎楽堂が「拍子孝(学) 習の利害汎論」という記事を寄せている。謡の学習を原則と応用に分類、謡曲教授の理想的なあり方を述べ、拍子学習を害とする説の論破を試みたもの。



標題 内題……

標題紙……

奥附…謡曲入門より堂奥まで

その他…謡曲 入門より堂奥まで (目次)

著者 奥附…齋藤芳之助

その他の場所…齋藤香村 (凡例)

出版 版次…再版

出版地…東京

出版社…能楽書院

出版年…大正14 (1925)

その他の場所…凡例 大正14 (1925)

形態 冊数…1 頁数…1 寸法…1

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…複写

備考 神戸女子大学古典芸能資料センター所蔵

の本を部分的に複写したもの。